

子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (防災キャンプ)

静岡県防災キャンプ推進事業

静岡県教育委員会

【事業のポイント】

- 県内5市町でキャンプ実施
- 地域の特色を生かした地域プラットフォームを形成し、防災教育・体験プログラムや避難所運営の実施
- 自主防災活動推進大会での活動紹介
- 各種広報誌等による事業成果の普及啓発



集合写真

1. 企画

(1) 事業実施の背景

静岡県は、東海地震等の大規模な地震による被害が予想されている。また、東日本大震災の教訓及び、南海トラフ巨大地震の想定を踏まえ、県民が安心して暮らせる社会を目指した取組の推進を重点施策として掲げている。

それらを踏まえ、災害の被害を軽減するためには、災害予防対策の一環として、防災知識の普及を図ることが必要である。本県では、“ふじのくに”危機管理計画(地域防災計画編)において、災害の種類、原因等についての科学的知識並びに災害予防措置、避難方法等を学習内容に組み入れ、学校教育、社会教育の全体を通じて防災教育の徹底を図るものとしている。

そこで学校・地域を避難所と想定した防災キャンプを通して、青少年の防災意識や実践力を高めると共に、避難所での青少年の役割を地域の大人とともに検証する機会とする。学校は、避難所生活における施設管理者としての関わり方や、青少年への防災教育についても、あわせて検討していく。そして、このキャンプで得られた成果を県内全ての市町、自主防災組織、学校等に、具体的なモデルとして情報提供し、より実効性の高い訓練や各種防災活動の充実・強化に役立てていくものとする。

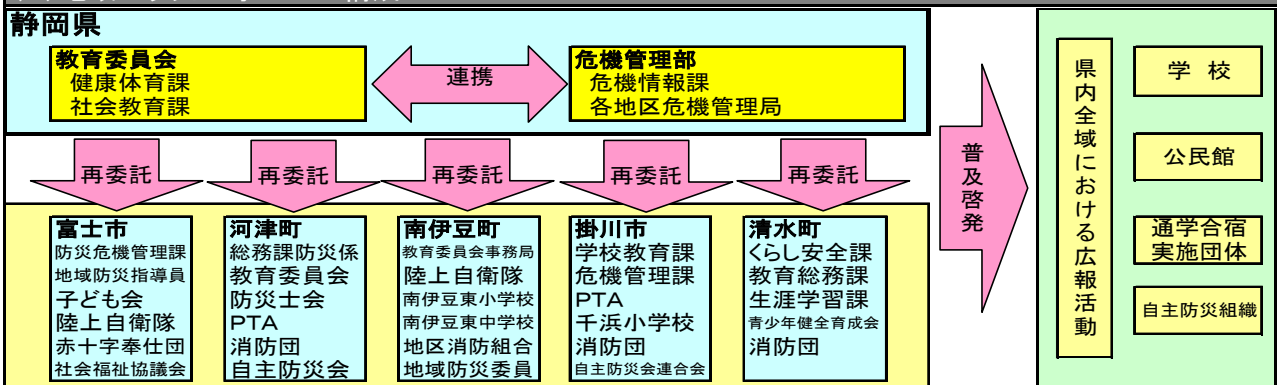
キャンプ実施地域は、普及啓発の効果を高めるため、県内賀茂地区から河津町、南伊豆町、東部地区から富士市、清水町、西部地区から掛川市を選定した。5地区では、小・中学生向けの防災学習や防災に関する体験活動を計画したり、地域住民と共に避難所生活したりする中で、災害発生時に地域防災の担い手としての小中学生の役割等を確認するとともに、命の大切さや避難所での生活の仕方を学ぶ機会とする。

(2) わらい

- ・各地域で自治会やPTA、自主防災組織等でプラットフォームを形成し、連携体制を構築し、地域の絆を深める。
- ・避難所での生活体験を通して、想定される災害や被災時の対応等を学ぶとともに、被災時の青少年の役割について検証する。
- ・課題の抽出・対応等を検討し、成果をまとめ、県内各地への普及を図る。

2. 実施概要

(1) 地域プラットフォームの構成



(2) 具体的な取組の概要



岳陽中学校区防災キャンプ
バッククッキング(赤十字奉仕団からポリ)



南小学校区防災キャンプ
土砂災害模型クイズ(土砂災害の発生原



南伊豆東中学校区防災キャンプ
避難所運営HUG訓練(中学生が地域住



千浜小学校区防災キャンプ
ジャッキアップ体験(消防団からジャッキアップの使い方を学ぶ)



南小学校区防災キャンプ
卵の殻体験(卵の殻の上を新聞紙で作っ



静岡県自主防災推進大会
パネル展示(防災キャンプの事例を県内

(3) 実績スケジュール

月 日	内 容
5月27日	第1回静岡県防災キャンプ担当者会
6月～ キャンプ実施前	防災キャンプ企画委員会<各地区>
	参加者説明会<各地区>
	防災キャンプ準備会<各地区>
8月8日～9日	南伊豆東中学校区防災キャンプ【南伊豆町】 実施場所:南伊豆町立南伊豆東中学校
8月27日～28日	岳陽中学校区防災キャンプ【富士市】 実施場所:広見まちづくりセンター、広見荘
9月8日～10日	千浜小学校区防災キャンプ【掛川市】 実施場所:千浜農村環境改善センター
10月22日～23日	南小学校区防災キャンプ【清水町】 実施場所:清水町防災センター
11月5日～6日	南小学校区防災キャンプ【河津町】 実施場所:河津町保健福祉防災センター
11月20日	静岡県自主防災活動推進大会【藤枝市】 ブース展示で防災キャンプの事例紹介
12月6日	第2回静岡県防災キャンプ担当者会
12月～1月	広報誌、リーフレット、ホームページ等で成果の広報

3. 成果と課題

(1) 成果

(児童・生徒)

- ・災害がおきた時に小中学生が中心に動かなくてはいけないことが良くわかった。
- ・食料や水の備蓄も大事だが、まずは家の耐震化や家具を固定するなど自分の命を守るための対策が大切なことがわかった。
- ・今回の防災キャンプで学んだことを実際に災害が起きた時に実践したい。

(地域)

- ・中学生は、災害時には地域の大きな戦力として期待しているので、今回学んだ知識や技能を活かして自主防災活動などに取組んで欲しい。
- ・中学生が防災について学ぶ機会はあまりないと思うので、このような機会を活用し、地域で活躍する中学生を増やすことができたらと思う。
- ・普段接することのない小中学生とコミュニケーションがとれて良かった。

(行政)

- ・実際に避難所となる体育館に宿泊することで生活する不便さや大変さを学ぶことができた。
- ・陸上自衛隊・消防署などの関係機関の協力のもと、様々な体験ができたことは、参加者にとって貴重な体験になった。
- ・地域・学校・行政が、防災キャンプを通して、災害発生時に必要なもの、足りないものは何か対応や心構えを一緒になって考え、知識や理解を深めることができた。

(2) 課題

- ・今年は昨年に比べ、多くの大人が参加してくれたが、その反面、小中学生の参加率が悪かった。訓練までの防災への意識付けと開催時期を考えなくてはいけないと思った。
- ・防災キャンプで核となる地域プラットフォームを形成することができたが、今後、どのように他の団体等と連携を広げていくか。

4. 地域プラットフォームの展望(今後の方向性・取組等)

【静岡県】

県単独実施事業(防災体験合宿)を各地域に普及し、成果等を情報提供することで防災活動を継続実施するとともに、自主防災組織等の関係団体と連携しながら地域プラットフォームを全県に広げていく。

【委託実施市町(富士市、河津町、南伊豆町、掛川市、清水町)】

- ・地域の青少年関係団体や青年会議所等、地域プラットフォームを構成する団体や協力者のネットワークを広げ、防災活動を継続実施する。
- ・「地域プラットフォーム」を継続させ、防災活動を実施するとともに、地域に密着した取組を活性化させる。また、各地域へのプラットフォームを普及・拡大する。

5. 団体プロフィール

静岡県教育委員会社会教育課

〒420-8601

静岡県静岡市葵区追手町9番6号

TEL : 054-221-3123

FAX : 054-221-3362

E-Mail : kyoui_shakyo@pref.shizuoka.lg.jp

